

人体に「自然」見つけたい

日展彫刻部門で特選 奥森日向子さん(崇城大)

崇城大大学院芸術研究科美術専攻1年の奥森日向子さん(23)＝熊本市＝の彫刻「木洩れ陽」が改組新第7回日展で特選を受賞した。同大在学生の特選受賞は2000年の芸学部創設以来初めて。奥森さんは「今後も五感を研ぎ澄まし、人体が呼び掛けるものを探したい」と意気込む。

受賞作は大学の卒業制作で、モデルの女性には楽なポーズで立つよう要望した。それが本能的には一番自然な姿勢と思ったからだ。

「筋肉の付き方や骨格には、その人が刻んだ人生が表れている」と奥森さん。審査でも「確固たる存在感を発し、崇高な雰囲気さえ漂わせて

いる」と評された。

鹿児島県霧島市出身。幼少期に粘土作品をほめられたのがうれしく、高校から美術部で彫刻を始めた。勉強のつまづきから不登校にもなったが、同大オープンキャンパスでの制作が評価され、入学への道が開けた。「自分の存在意義を認められた気がした」と振り返る。

支えてくれた周囲への感謝をかみしめつつ、制作では思考より直感を大事にする。「知識や理解を超えたところに、人間の普遍的なものがあると信じている」。無条件にいとおいしいと思う人体に「自然」を見つげたいと、今日も粘土をにぎる。(魚住有佳)



彫刻を制作する奥森日向子さん
＝熊本市西区



奥森さんの彫刻「木洩れ陽」(縦205センチ、横52センチ、奥行き42センチ)